

## — 第69編 — 海とボートと芝生と住まい

2000年に第30回アメリカズカップ<sup>\*1</sup>がオークランド<sup>\*2</sup>で開催された。子供たちのレガッタも併催され、佐島でまねごとをしていた息子がホームステイで参加した。親の我々二人も同行し、ニュージーランドを初めて探索した。そして、その生活環境とクオリティー・オブ・ライフ(QOL)の豊かさに触れることができた。この地ではヨットやボートと遊ぶことは生活の一部で、多くの家のガレージにはボート用のスペースがあり、車で引いて好きな海辺で楽しむことができる。

ところで、広い住宅もオーストラリアと同様、平屋が原則である。だから都市圏は人口の割に水平に広がっている。カップ開催期のバブルでハーバーエリアでのコンドミニアムの開発も盛んだったが、少し都心を離れて探索すると、そこそ成熟した住まいと住宅地の理想郷が至る所に実現していることに目を見張った。ゴルフ場付はるか、専用の船着き場のある戸建群や、果



写真69-1 マリーナ付の住宅地

\*1  
America's Cup:  
1851年に始まった  
国際ヨットレース

\*2  
Auckland: ニュージー  
ラン北部の同国最大  
都市。人口約131万



写真69-2 地域社会のレガッタ

ては小型飛行機用の芝生のエアポート付団地など、余生を送るならここだと思わせる設えに自分の年齢を自問するのであった。そして、英国譲りのガーデンングの作法と維持管理はそこそ徹底してピクチャレスクなのだ。互いに競うように続くガーデンを目で追いかけると、彼らの誇らしい価値観がどうだと言わんばかりであった。

ところで、息子が参加した小型ヨットのレガッタは、地域のクラブが開催し、親や兄弟たちがボランティアでその運営にあたった。それは贅沢でもななくてもなく、参加する子供たちの年齢も様々だ。そして、年長者から年少者へと基礎的な技術やルールの伝承がなされる。準備から片付けまでのルーティンが一通りできなければ一人前とは言えないし、参加する資格もない。その当たり前のことを、コミュニティーの中で日常の作法として身につけるのである。



写真69-3 ピクチャレスクな住宅地